

すてっぴ

1月号



発行/大野城まどかぴあ 男女平等推進センター

編集/男女平等推進センター情報サポーター

明けましておめでとうございます

男女平等推進センター所長 原田 ゆみ子

男女平等推進センターは、平成8年のオープン以来、女性も男性もいきいきと活躍できる男女共同参画社会をめざして、市民の皆様とともに様々な啓発講座やイベント、資格取得講座、相談事業などを行ってきました。これまで、センターを支援していただいた皆様へ深く感謝申し上げます。センターは、現在改装工事中ですが、情報交流ひろばやキッズルームなどを新たに整備し、4月にリニューアルオープンする予定です。もっと多くの皆様に男女平等推進センターを利用していただき、市民の皆様とともに男女共同参画の取り組みをさらに進めていきたいと思っております。

ご期待ください。本年も皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



日時・会場	講座・イベント	講師・内容・料金など
①2月2日(土) 会議室2 10:00~12:00 ②2月9日(土) 会議室2 13:30~15:30 ③④(昼休み時間有) 2月23日(土) 大会議室 10:00~15:00	女性リーダー養成講座 「活かす イカス 女性力!」 (全4回) 今の自分に満足していますか? 夢や「なりたい自分」を描く事が 出来ますか?もう1歩自分を 前向きに自分らしく生きていくため のヒントを一緒に見つけましょう! ※対象者は、原則4回とも出席 できる女性	①林田 スマ(大野城まどかぴあ館長) 「男女共同参画は女性の生き生きステージ」 ②~④ 深月 敬子さん (人事教育コンサルタント・株ウイルブレイン) 「こころの整理術~ロジカルシンキング~」 「みんなが生きるコミュニケーション」 「リーダーシップを考えよう!」 参加料:無料
3月2日(土) 多目的ホール 10:00~11:30 13:30~15:30 ※ワークショップ 3/4(月)/7(木) 詳細はチラシを ご覧ください	第17回大野城男女共生フォーラム 「可能性を信じて いきいき未来」 ~ともに輝く 男女共生社会へ~ 女性も男性も共に生き活きと共同参画するコミュニ ティ都市づくりを目指して、男女共生フォーラムを開 催します。今年のメインゲストは神田紅さんです。ダイ ナミックな講談は必見です!小・中学生図画ポス ター・標語コンクール表彰式もあり、作品はギャラ リーモールに展示されます。(2/22~3/4) ※詳細は男女平等推進センターまで。	2日(土) ○10:00~11:30(多目的ホール) 開会式 「男女共同参画」ポスター・標語表彰式 ○13:30~15:30(多目的ホール) 講談&トーク 演目:「伊達家の鬼夫婦」 出演:神田 紅さん(講談師)・紅塾生 林田 スマ(大野城まどかぴあ館長) 参加料:500円(1月15日発売) 男女平等推進センターにて販売

★講座、イベント等のお申し込み・お問い合わせは⇒男女平等推進センターへ★

〒816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号 TEL (092) 586-4030 FAX (092) 586-4031

ホームページ <http://www.madokapia.or.jp/>

開館日時/月曜日~金曜日 9時~19時 第2・4土曜日 9時~17時

閉館日/第1・3水曜日、第1・3・5土曜日、日曜日・祝日、年末年始

※右のマークのある講座・公演は託児が利用できます。

開催日の1週間前までにお申し込みください。・1人1回600円 ・満1歳~小学校就学前まで

託児
マーク♪



情報サポーター養成講座(全3回)

発信する人にないませんか？

日にち：11月27日、12月4・11日(火)

講師：長野 士郎(ながの しろ)さん

1 思いを力たちに(レイアウト) 瞬間は心で押す(写真)

そもそも広報力とは、戦後GHQが導入した『パブリックリレーションズ』という言葉の直訳で、「信頼関係をつくり意識をかえる」という意味だそうです。だから広報する側は、企画の段階から自分自身が伝えたい感動を持っていないと、はなから他人に伝わるはずがない！納得です。

こんな発信が出来たらいいね！
(講師長野さんが編集された
広報あかいけ 最終号より)



- ・レイアウトは難しいものではない
→いろいろな書誌のレイアウトをまねて自分の引き出しを増やそう！
- ・読み手のストレスが少ないレイアウトが大事
→視線の流れを意識して創意工夫をしよう！
- ・シャッターチャンスは逃さない
→もう1歩前に出て雰囲気や臨場感、空気感まで撮る気持ちで！

2 心揺さぶる(文章) 研ぎ澄ます(企画)

ゆるぎないもの(姿勢)

読者を引き込む文章の書き方、よい広報誌制作には企画が近道であるのと取り組む心がけが大切であることについての講義でした。



・人の心を揺さぶるには、書き出しの三行が大事です。書き手の“思い”+“魂が宿った言葉”でリズムよく！アナウンサーの話し言葉を文章にしてみると良い参考になります。

長野さんは、明朗なイケメン。リスムよい明快な講義は楽しい！

・広報誌をつくるにあたり、初心者が多いのが「いきなり」取り掛かっていく傾向。これは失敗しやすい。構成計画=企画をじっくり練ることがいい広報誌を作る近道で、長野さんもかなりの時間を掛けるそうです。

・日頃から色々な情報を収集し、プロの写し真似から入るのも勉強になります。自分が感動する作品を作る努力を続けることが力となり、人に感動を与えるものが出来るようになります。

3 自分発信をしてみよう

(情報サポーター講座のチラシをつくる)

受講者全員が30分間のチラシづくりに奮闘後、各々が制作に向かった思いを発表しました。その成果品はというとパソコン使用・手書きのものと実に個性豊かな力作揃いで、なかにはプロではと思うほどの作品もあり。(紙面で紹介できないのが残念です。いつか紹介できる機会があるといいのですが……) 長野さんは先ず良いところを評価し、そして更に良いものにするためのアドバイスをされます。それは実に分かりやすく、笑顔でやさしい語り口。長野さんのお人柄が内面から、かもし出されているように感じました。

自分発信出来そう！

終始和やかな講義は、時間が宇宙時間のごとくあっという間でした。講座を受けてなんだか自分にも出来そうな気がしてきました。受講者には若い女性の皆様が多く、こんな方たちがもっと我々の仲間に加わって



頂ければこの“すてっぶ”がもっと飛躍するのではないのでしょうか。できれば若い男性にもっと参加してほしいものですが……

(団塊世代のつぶやき)
最後に情報サポーター代表から一言。「楽しいメンバーです。月1回2時間程度の活動に参加してくだ

一緒にやりましょう”
活動中の情報サポーターからの熱いメッセージ！

さい。」の挨拶で3回講座が締めくくられました。“長野さん、本当にすばらしい講義ありがとうございました。”

(情報サポーター しもおおりだんしゃく)

平成 24 年度大野城まどかぴあ
男女平等推進センター市民グループ活動支援事業
「中嶋玲子さん 講演会」

日にち：12月1日（土）

主 催：大野城女性の会

私こよければがんばります！

中嶋玲子さんの第一声は「早口で話しますので、手話の方大変ですね」その言葉どおり伝えたい大切な事がたくさんありすぎて、もどかしいかのよう2時間ノンストップで語られた。遅々として進まない日



素敵な迫力!!
中嶋さん

本の男女平等に、怒りにも似た焦燥感を込めて、ホワイトボードいっぱい重要な事を書いては消し、消しては書く。部屋中響き渡る力強い声に40人あまりの参加者は圧倒された。まず、男女共同参画社会の絶対的必要性を感覚的にではなく、歴史的・データの・社会的にきち

んと紐解く事からはじまった。第2次世界大戦終結後の女性参政権の獲得、女子差別撤廃条約の批准、男女雇用機会均等法制定、そして1999年の男女共同参画社会基本法の制定と、少しずつ法的な整備はされてきたものの、なかなかすすまない現状。経済成長時代にすり込まれた『男は仕事、女は家庭』という意識を払拭することはとても困難だ。しかし、社会経済情勢の急激な変化(人口減少・少子高齢社会・産業構造や雇用労働の変化・ワークライフバランスの推進・地域分権型社会の定着)に対応するためには、男女の人権が尊重される社会すなわち、男女共同参画社会の実現が急務なのだ。意思決定の場に半分は女性が参画する事が当然だが「第3次男女共同参画基本計画」における重要な施策の、政治、司法を含めたあらゆる分野で「2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする」に向けた取組みさえ難しい。そしてそれは女性側にも原因がある、と解りやすいエピソードが挙げられた。女性に役員になりませんかと声をかけると「私なんかにはできません」とか「主人に聞かないと……」と、なかなか引受けない。なぜか妻より先にその夫に「奥さんを役員に」と声をかけると、「うちんとは何もできませんから…」と言う。

引き受けたら引き受けたで近所の人から「好いとんしゃーね」などと、あたかも出しゃばりの様に言われたりする。しかしこれからはそんなことには負けず、もし役員などの誘いを受けたら「私こよければ、がんばります」と引き受け、夫も「ほくも応援します」と送り出すように強く勧められた。終了後、顔見知りの男性が「2時間ずーっと怒られようごたった」と苦笑いしながら会場を後にした。それは怒られたというより励まされたといったニュアンスに聞こえた。

(情報サポーター ちびまま)

男性・子どものための男女共同参画セミナー
「女が変わる・男が変わる
あたらしい働き方」

日にち：12月1日（土）

講 師：佐藤 千里(さとう ちさと)さん

「気遣い」が出来なくなった時は要注意

このセミナーは「女性就業支援全国展開事業」の一環として開催されたものであり、女性労働協会女性就業支援センターで業務第二課長を務める佐藤千里さんを講師に実施された。佐藤さんは、支援センター業務の現場に身を置く者として感じられたことや考えを披露され、「今なぜワーク・ライフ・バランスなのか」とその大切さを説かれた。正しい答えがあるものでもなく、ひとり一人また地域によってもニーズが違うが、今日の話をそれを考えるヒントにしてほしいと。また、「ワーク・ライフ・バランス」は「ストレス・マネジメント」でメンタルヘルス対策が重要だといろいろな対処法を話された。その中で「気づかい」すなわち、社会人としての身だしなみがだらしくなったり、遅刻が多くなった時などは要注意と力説された。



「女性だけの問題ではない……」
と語る佐藤さん

<ワーク・ライフ・バランス>とは…

「仕事と生活の調和」の意味で、「私生活の充実により仕事が進み」「仕事が進むことにより私生活も潤う」という、仕事と私生活の相乗効果を高める為の考え方と取り組みを指す。

(情報サポーター 倉町賢一郎)

なぜそうしたのか、そうしたかったから、できたから

これは日本女性会議仙台で基調講演されたノルウェーの32歳女性国会議員の言葉です。5歳男児が「男も首相になれるの」と驚くほど、『一方の性が全体の40%以上占めること』といったクォータ制の規定が男女平等法の中にきちんと謳われているノルウェー。そのため、意思決定の場への女性の参画が進んでいて、男か女かは関係なく自分がしたいことができる本来の意味での男女平等が幅広い分野で達成されています。女性大臣は、組閣



写真に花を添える程度の日本社会とは大違いですね。東日本大震災後、復興が進む仙台。しかし、それは表面上、都市部のことだとパネリストの報告や被災地訪問で実感しました。それどころではない災害時には意思決定が健康な男性のみで行われ、一番支援が必要な高齢者・障がい者・乳幼児・女性の声が届かない。ではどうすればいいか？それは日頃から男女が意思決定に参加できるクォータ制の仕組みが大切だと感じました。

(日本女性会議仙台 参加報告 情報サポーター 森)

1月の男女平等推進センター

日	曜	予 定
1	火	休館日
↓		
4	金	休館日
5	土	センター閉館日
6	日	センター閉館日
7	月	
8	火	啓発林 ーター定例会
9	水	
10	木	ヘルシーエクササイズ ⑨
11	金	
12	土	
13	日	センター閉館日
14	月	センター閉館日
15	火	託児林 ーター定例会
16	水	休館日
17	木	ヘルシーエクササイズ ⑩
18	金	親子のためのブックタイム 情報サポーター編集会議
19	土	センター閉館日
20	日	センター閉館日
21	月	
22	火	市民グループ 活動支援事業
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	センター閉館日
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	



「すてっぷ」のバックナンバーがHPでご覧いただけます。皆様のご意見・ご感想お待ちしております。

お問い合わせは、☎586-4030 (男女平等推進センター)

※男女平等推進センターでは、12月から2月までリニューアル工事を行います。工事期間中はご迷惑をおかけしますがご了承ください。



相談のご予約・お問合せは…
☎092-586-4035へ

☆大野城まどかぴあ 相談室のご案内☆

相談は無料です。まずはお電話してください。

■総合相談・・・月曜～金曜 9時～17時

※土・日・祝日と休館日はお休みです。

面接相談（要予約）と電話相談ができます。

■臨床心理士による相談・・・火曜・木曜 月4回

面接、電話相談。予約してください。

生き方、夫婦・親子関係、対人関係、仕事のこと、DVの相談など、気持ちの整理をしませんか。

<今月の相談日程>

1月10日・24日・31日(木)、15日(火)

■法律相談・・・第1～4木曜日

13時～16時 面接相談のみ。予約してください。

弁護士が相談を受けます。

■おしごと相談・・・1月9日(水) 10時～12時

面接相談のみ。予約してください。

福岡県福岡労働者支援事務所の労働相談員、

就業アドバイザーが相談を受けます。

ひとりごと ー 昨年の3月にミャンマー(ビルマ)へ旅をしました。映画「ビルマの竖琴」で知られた国ですが、一般的な旅行先としてはあまり話題にのぼらないようです。最近では民主化政策が功を奏して、各国の経済制裁も緩和され、企業の進出や旅行者が増えています。まだ直通便はありませんが、大手旅行社のバックツアーも見かけるようになりました。ミャンマーの見所は、国中に点在する仏教寺院や仏教関連の遺跡ですが、ワタクシの最大の魅力は、街のたたずまいと人々の微笑みであり、昔の日本もこうだったと、一定の世代以上の人はノスタルジーを感じることでしょう。その背景には、50年にも渡る欧米や日本からの経済制裁で妙な西洋や日本の文化の流入が途絶えたことにあるのかもしれませんが、いい意味でアメリカナイズされていない国の一つです。ミャンマー最大の都市ヤンゴン(ラングーン)の街並を見ても高層ビル開発にさらされることなく、前近代の建物が現役として活用され、車歴30～40年とおぼしき日本車が走り回っていました。近代化の波にのみ込まれず、笑顔で生きる人々とのふれあいを充分に楽しんだ旅でした。今年もミャンマーにとって良い年でありますように。(情報サポーター 倉町 賢一郎)